資料14. 推計患者数の予測値・受療率など（～14歳）

●～14歳：受療率は「一定」と仮定した将来予測値

	年齢階級	実績値 1987	1993	1999	2005	予測値 2011	2017	2023	2029	2035
受療率一定（2005年と同じ）	1～4	584.9	508.7	415.9	487.0	487.0	487.0	487.0	487.0	487.0
	5～9	1090.5	1088.3	935.3	1042.0	1042.0	1042.0	1042.0	1042.0	1042.0
	10～14	524.8	505.6	414.2	589.8	589.8	589.8	589.8	589.8	589.8
	35～44	978.4	959.8	810.1	896.1	694.17	659.59	625.01	590.42	555.84

●推計患者数の実績値～予測値

		年齢階級	実績値 1987	1993	1999	2005	予測値 2011	2017	2023	2029	2035
推計患者数	受療率一定（2005年と同様）と仮定	1～4歳	33,900	24,900	19,800	22,100	18,901	16,329	14,836	13,914	12,989
		5～9歳	86,900	75,700	56,400	62,000	57,004	48,325	42,383	38,866	36,565
		10～14歳	50,500	39,400	28,000	35,600	34,978	31,472	26,677	23,601	21,770
		計	171,300	140,000	104,200	119,700	110,883	96,126	83,897	76,381	71,324
人口予測値（千人）	平成18年12月推計：出生中位・死亡中位	1～4					3881.088	3353.072	3046.558	2857.137	2667.199
		5～9					5470.696	4637.755	4067.501	3729.954	3509.189
		10～14					5930.565	5336.107	4523.171	4001.528	3691.127
		35～44歳					18829.17	17027.21	14644.21	13166.36	12419.07

資料15. 推計患者数の予測値・受療率など（15～44歳）

●45～64歳：受療率は「一定」と仮定した将来予測値

	年齢階級	実績値 1987	1993	1999	2005	予測値 2011	2017	2023	2029	2035
受療率一定（2005年と同じ）	45～54	1234.8	1272.5	1046.6	1024.0	1024.0	1024.0	1024.0	1024.0	1024.0
	55～64	1355.3	1441.4	1250.7	1374.6	1374.6	1374.6	1374.6	1374.6	1374.6

●推計患者数の実績値～予測値

		年齢階級	実績値 1987	1993	1999	2005	予測値 2011	2017	2023	2029	2035
	受療率一定（2005年と同様）と仮定	45～54歳	207,000	231,500	202,000	169,800	192,044	155,091	158,003	178,344	174,552
		55～64歳	181,200	218,800	206,700	259,400	107,349	133,993	98,829	98,214	108,870
		計	388,200	450,300	408,700	429,200	299,392	289,084	256,832	276,559	283,422
人口予測値	平成18年12月推計：	45～54歳					18755.17	15146.33	15430.72	17417.27	17046.95
		55～64歳					7809.417	9747.743	7189.618	7144.927	7920.063

資料16. 推計患者数の推移と予測値

		実績値				予測値				
	年齢階級	1987	1993	1999	2005	2011	2017	2023	2029	2035
1～14歳	1～4歳	33,900	24,900	19,800	22,100	18,901	16,329	14,836	13,914	12,989
	5～9歳	86,900	75,700	56,400	62,000	57,004	48,325	42,383	38,866	36,565
	10～14歳	50,500	39,400	28,000	35,600	34,978	31,472	26,677	23,601	21,770
15～44歳	15～19歳	66,200	58,500	34,400	27,200	24,105	22,694	19,232	15,658	13,357
	20～24歳	75,600	83,800	54,800	45,100	34,954	31,473	29,136	24,273	19,765
	25～34歳	163,500	150,200	141,400	130,200	98,348	83,647	72,867	66,810	57,136
	35～44歳	195,200	175,000	128,100	151,300	130,706	112,309	91,527	77,737	69,031
45～64歳	45～54歳	207,000	231,500	202,000	169,800	192,044	155,091	158,003	178,344	174,552
	55～64歳	181,200	218,800	206,700	259,400	107,349	133,993	98,829	98,214	108,870
65歳～	65～69歳	58300	84500	104300	115200	150350.3	184829	153405.7	133003.4	148,040
	70～74歳	46200	53800	86600	120600	113413.2	134892.5	167965.8	139343.5	127,908
	75～79歳	28900	36700	50500	77000	92171.99	104741.3	124988	155873.3	108,942
	80～84歳	10300	17600	22300	38200	58339.32	79807.58	91647.99	109884.5	103,814
	85歳以上	5500	7700	10800	18500	49835.12	71709.13	106069.6	131681.9	168,711
	計	1,209,200	1,258,100	1,146,100	1,272,200	1,162,498	1,211,313	1,197,568	1,207,204	1,171,450
（再掲）	1～14歳	171,300	140,000	104,200	119,700	110,883	96,126	83,897	76,381	71,324
	15～44歳	500,500	467,500	358,700	353,800	288,113	250,123	212,762	184,479	159,288
	45～64歳	388,200	450,300	408,700	429,200	299,392	289,084	256,832	276,559	283,422
	65歳～	149200	200300	274500	369500	464109.9	575979.5	644077.1	669786.6	657415.5
人口	千人	122264	124764	126686	127768	126912.8	124455.6	120735.3	116073.7	110679.4
	億人	1.22	1.25	1.27	1.28	1.27	1.24	1.21	1.16	1.11

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業研究事業）
分担研究報告書

歯科医院への定期受診の関連要因
～Web 調査による分析～

研究代表者：安藤雄一（国立保健医療科学院・口腔保健部）
研究協力者：石田智洋（東京医科歯科大学 教育システム評価学分野）
研究分担者：深井穫博（深井保健科学研究所）
研究協力者：大山　篤（東京医科歯科大学歯学部附属病院歯科総合診療部）

研究要旨

今後の歯科需要について(株)マクロミル社のモニタに対して定期受診者と非定期受診者に対して Web 調査（本調査）を実施するための予備調査としてモニタ 3 万人（20～60 歳代の男女）に対して定期歯科受診、最後の歯科受診時期と受けた診療内容について事前調査として Web 調査を行った。

定期受診者の割合は対象全体で 35.7%、過去 1 年間における歯科受診ありの割合は対象全体で 50.3%であり、ともに女性と高齢層の割合が高かった。

定期受診の有無についてロジスティック回帰分析を行ったところ、性・年齢階級のほか、最後に受けた診療内容、職業、都道府県が有意であり、とくに職業差については若い年齢層ほど顕著であった。

A．目的

歯科の将来需要の予測を行う場合、過去のデータを利用する方法は研究の定石として必要な手段であるが、その場合、現状がそのまま将来に推移すること暗黙の前提として存在しており、制約された条件下で行われると予測に過ぎない点に留意する必要がある。

これを克服するためには、需要に関して仮想的な状況を設定した質問紙調査が有効であり、本研究班では歯科医院への定期受診と職場・市町村等で行われる歯科健診の 2 つについて、(株)マクロミル社[1)]のモニタを対象とした Web 調査による検討を行っている[2,3)]。このうち定期受診に関する Web 調査[2)]では、すでに歯科医院に定期受診している群と歯科医院に受診しているが非定期的である群を予め選び出して両群を比較するという手法を用いたが、これを行うには(株)マクロミル社のモニタに対して事前調査を実施して、定期受診者の割合などを確認したうえで、本調査を実施する必要がある。Web 調査では、調査会社のモニタが有する性・年齢・地域・職業等の基本属性からクライアントの希望するサンプルを選定するが、モニタの基本属性ではクライアントの要求に対応できない場合はモニタに対して事前調査を実施し、本調査は事前調査で該当したモニタを抽出して行う。

今回、定期受診に関するWeb調査を行うに際して、モニタ3万人に対する事前調査を実施した。事前調査であるため、質問数は定期受診に関する質問を含めて計3問と、簡素な調査であるが、我が国には定期受診に関する全国統計がないこと、また性・年齢の他に職業と居住都道府県の情報が利用でき、これ自体が歯科の定期受診に関する重要なデータになりうると考えられた。

そこで、本報告では定期受診に関するWeb調査の事前調査で得られた分析結果について報告する。

B．方法

1．調査の流れとデータセット

本調査と位置づけた定期受診に関するWeb調査では、サンプルサイズを20～60歳代の男女の計10層について定期受診者と非定期受診者を100名ずつと設定し（計2,000名）、定期受診者と非定期受診者を振り分けるための事前調査を行った。この事前調査では、20～60歳代の男女計3万人分のデータが集まるように、それぞれの性・年齢階級に見当をつけてアンケート回答依頼メールを9万人のモニタ宛てに配信し、3万人から回答を得た。調査実施期間は、2011年2月22日(火)～24日(木)である。

表1は調査実施日に最も近い時点でのモニタ数[1)]と事前調査における調査依頼メールの配信数・回収数・回収率を性・年齢階級別に示したものである。

表1．モニタ数と事前調査における調査依頼メールの配信数・回収数・回収率

	全モニタ数（2011/3/1現在、未成年除外）【注】60歳代は60歳以上			事前調査における調査依頼メールの配信数（A）			事前調査の回収数（B）			回収率＝B÷A(%)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
20歳代	102,442	156,030	258,472	18,000	17,000	35,000	2,886	3,427	6,313	16.0%	20.2%	18.0%
30歳代	142,674	234,037	376,711	12,000	8,000	20,000	3,250	2,657	5,907	27.1%	33.2%	29.5%
40歳代	101,508	117,028	218,536	6,000	6,000	12,000	3,183	2,726	5,909	53.1%	45.4%	49.2%
50歳代	47,029	38,283	85,312	6,000	6,000	12,000	2,631	2,933	5,564	43.9%	48.9%	46.4%
60歳代	24,386	38,903	63,289	5,500	5,500	11,000	3,070	3,237	6,307	55.8%	58.9%	57.3%
計	418,039	584,281	1,002,320	47,500	42,500	90,000	15,020	14,980	30,000	31.6%	35.2%	33.3%

なお、事前調査が終了した日から翌日にかけて（2月24日(木)～25日(金)）、回答が得られた3万人の対象者のうち歯科医院に定期受診していると回答した対象者1,420名と、歯科医院を受診しているが定期的ではないと回答した1,405名をそれぞれ無作為抽出して本調査の調査依頼メールを送付し、それぞれ1,030名、計2,060名より回答を得ている。

2．分析項目

事前調査の質問項目は、以下の通りである。

Q1：あなたは現在歯科医院で定期受診していますか。している方はおおよその受診の頻度を教えてください。

1ヵ月に1回以上／2～3ヵ月に1回程度／半年に1回程度／1年に1回

程度／２年に１回程度／３年に１回程度／それ以下／過去定期受診していたが現在はしていない／定期受診したことはない

Q2：最後に歯科医院で歯の治療を受けたのはいつ頃ですか。

１ヶ月以内／３ヶ月以内／半年以内／１年以内／２年以内／３年以内／５年以内／５年より前／歯科医院で歯の治療は受けたことがない

Q3：歯科医院で最後に受けた歯の治療は何ですか（複数回答）

むし歯の治療（詰めもの・冠をかぶせる）／歯の根管治療（歯の神経の治療）／歯周疾患の治療（歯肉炎・歯周病）／抜けた歯の治療（入れ歯・ブリッジ）／歯ならびやかみあわせの治療／その他の治療

対象者の属性として、分析に利用できた項目は、性、年齢、居住する都道府県、職業であった。

3. 分析方法

まず Q1 ～ Q3 の基礎統計量を算出した。

次いで、Q1 について、定期受診を「している」と回答し、かつ頻度が「１年１回以上」である場合を「定期受診者」と定義し、クロス集計およびロジスティック回帰分析を行った。

C. 結果

1. 基礎統計量

表２に定期受診に関する質問の回答状況を示す。「定期受診あり」は、男全体で 31.5%、女全体で 39.9%、男女合計で 35.7%であり、女性が高い割合を示し、各年齢層で一貫していた。また年齢が高いほど高値を示した。「定期受診あり」の内訳をみると、割合の高い順に「半年に１回程度」(36%)、「１年に１回程度」(31%)、「２～３ヵ月に１回程度」(22%)、「１ヵ月に１回以上」(11%) であった。

表2. 定期受診に関する質問の回答状況

質問（Q1）＝あなたは現在歯科医院で定期受診していますか。している方はおおよその受診の頻度を教えてください。

	年齢階級	男 1 1ヵ月に1回以上	男 2 2～3ヵ月に1回程度	男 3 半年に1回程度	男 4 1年に1回程度	男 5 2年に1回程度	男 6 3年に1回程度	男 7 それ以下	男 8 過去定期受診していたが現在はしていない	男 9 定期受診したことはない	男 計	男 （再掲）Ⅱ 1年に1回以上 定期受診あり	女 1 1ヵ月に1回以上	女 2 2～3ヵ月に1回程度	女 3 半年に1回程度	女 4 1年に1回程度	女 5 2年に1回程度	女 6 3年に1回程度	女 7 それ以下	女 8 過去定期受診していたが現在はしていない	女 9 定期受診したことはない	女 計	女 （再掲）Ⅱ 1年に1回以上 定期受診あり
人数	20歳代	111	146	230	243	87	46	191	524	1,307	2,885	730	99	225	421	362	107	45	152	644	1,372	3,427	1,107
	30歳代	85	188	318	354	118	71	223	501	1,392	3,250	945	61	204	414	351	108	50	119	432	918	2,657	1,030
	40歳代	87	167	317	347	103	91	219	458	1,395	3,184	918	83	201	376	360	133	41	156	426	949	2,725	1,020
	50歳代	104	163	280	327	110	52	135	375	1,085	2,631	874	111	289	458	354	98	50	117	425	1,032	2,934	1,212
	60歳代	185	315	454	313	94	60	96	460	1,093	3,070	1,267	220	433	607	355	86	33	77	457	969	3,237	1,615
	計	572	979	1599	1584	512	320	864	2318	6,272	15,020	4,734	574	1352	2276	1782	532	219	621	2384	5240	14,980	5,984
割合	20歳代	3.8%	5.1%	8.0%	8.4%	3.0%	1.6%	6.6%	18.2%	45.3%	100.0%	25.3%	2.9%	6.6%	12.3%	10.6%	3.1%	1.3%	4.4%	18.8%	40.0%	100.0%	32.3%
	30歳代	2.6%	5.8%	9.8%	10.9%	3.6%	2.2%	6.9%	15.4%	42.8%	100.0%	29.1%	2.3%	7.7%	15.6%	13.2%	4.1%	1.9%	4.5%	16.3%	34.6%	100.0%	38.8%
	40歳代	2.7%	5.2%	10.0%	10.9%	3.2%	2.9%	6.9%	14.4%	43.8%	100.0%	28.8%	3.0%	7.4%	13.8%	13.2%	4.9%	1.5%	5.7%	15.6%	34.8%	100.0%	37.4%
	50歳代	4.0%	6.2%	10.6%	12.4%	4.2%	2.0%	5.1%	14.3%	41.2%	100.0%	33.2%	3.8%	9.9%	15.6%	12.1%	3.3%	1.7%	4.0%	14.5%	35.2%	100.0%	41.3%
	60歳代	6.0%	10.3%	14.8%	10.2%	3.1%	2.0%	3.1%	15.0%	35.6%	100.0%	41.3%	6.8%	13.4%	18.8%	11.0%	2.7%	1.0%	2.4%	14.1%	29.9%	100.0%	49.9%
	計	3.8%	6.5%	10.6%	10.5%	3.4%	2.1%	5.8%	15.4%	41.8%	100.0%	31.5%	3.8%	9.0%	15.2%	11.9%	3.6%	1.5%	4.1%	15.9%	35.0%	100.0%	39.9%

表３に最後の歯科受診に関する質問の回答状況を示す。「過去１年以内の歯科受診あり」男全体で 45.9%、女全体で 54.7%、男女合計で 50.3%であり、女性が高い割合を示した。年齢が高いほど高値を示したが、その傾向は男のほうが顕著で、男女差は年齢が高いほど小さかった。

表3. 最後の歯科受診に関する質問の回答状況

質問（Q2）＝最後に歯科医院で歯の治療を受けたのはいつ頃ですか

	年齢階級	男 1 1ケ月以内	男 2 3ケ月以内（1は除外）	男 3 半年以内（1～2は除外）	男 4 1年以内（1～4は除外）	男 5 2年以内（1～5は除外）	男 6 3年以内（1～5は除外）	男 7 5年以内（1～6は除外）	男 8 5年より前	男 9 歯科医院で歯の治療は受けたことがない	男 計	男 （再掲）1年以内	女 1 1ケ月以内	女 2 3ケ月以内（1は除外）	女 3 半年以内（1～2は除外）	女 4 1年以内（1～4は除外）	女 5 2年以内（1～5は除外）	女 6 3年以内（1～5は除外）	女 7 5年以内（1～6は除外）	女 8 5年より前	女 9 歯科医院で歯の治療は受けたことがない	女 計	女 （再掲）1年以内
人数	20歳代	276	221	272	343	317	289	242	780	145	2,885	1,112	421	339	420	518	491	335	254	557	92	3,427	1,698
	30歳代	364	289	294	412	451	313	300	728	99	3,250	1,359	345	287	365	404	376	264	199	388	29	2,657	1,401
	40歳代	368	268	331	389	419	320	284	764	41	3,184	1,356	335	284	347	425	412	266	206	440	10	2,725	1,391
	50歳代	348	238	294	390	379	247	184	527	24	2,631	1,270	499	375	385	419	395	277	182	391	11	2,934	1,678
	60歳代	588	405	414	390	371	238	183	452	29	3,070	1,797	679	441	441	472	416	225	189	354	20	3,237	2,033
	計	1944	1421	1605	1924	1937	1407	1193	3251	338	15,020	6,894	2279	1726	1958	2238	2090	1367	1030	2130	162	14,980	8,201
割合	20歳代	9.6%	7.7%	9.4%	11.9%	11.0%	10.0%	8.4%	27.0%	5.0%	100.0%	38.5%	12.3%	9.9%	12.3%	15.1%	14.3%	9.8%	7.4%	16.3%	2.7%	100.0%	49.5%
	30歳代	11.2%	8.9%	9.0%	12.7%	13.9%	9.6%	9.2%	22.4%	3.0%	100.0%	41.8%	13.0%	10.8%	13.7%	15.2%	14.2%	9.9%	7.5%	14.6%	1.1%	100.0%	52.7%
	40歳代	11.6%	8.4%	10.4%	12.2%	13.2%	10.1%	8.9%	24.0%	1.3%	100.0%	42.6%	12.3%	10.4%	12.7%	15.6%	15.1%	9.8%	7.6%	16.1%	0.4%	100.0%	51.0%
	50歳代	13.2%	9.0%	11.2%	14.8%	14.4%	9.4%	7.0%	20.0%	0.9%	100.0%	48.3%	17.0%	12.8%	13.1%	14.3%	13.5%	9.4%	6.2%	13.3%	0.4%	100.0%	57.2%
	60歳代	19.2%	13.2%	13.5%	12.7%	12.1%	7.8%	6.0%	14.7%	0.9%	100.0%	58.5%	21.0%	13.6%	13.6%	14.6%	12.9%	7.0%	5.8%	10.9%	0.6%	100.0%	62.8%
	計	12.9%	9.5%	10.7%	12.8%	12.9%	9.4%	7.9%	21.6%	2.3%	100.0%	45.9%	15.2%	11.5%	13.1%	14.9%	14.0%	9.1%	6.9%	14.2%	1.1%	100.0%	54.7%

「最後に受けた歯科治療」のなかで最も高い割合を示したのは「むし歯の治療」で歯科受診経験がある人（N=29,500）の 66 %を占めていた。次いで、「歯周疾患の治療」（14%）、「その他の治療」（12%）、抜けた歯の治療（12%）、歯の根管治療（10%）、「歯ならびやかみ合わせの治療」（5%）であった。「その他の治療」の自由回答欄をみると、歯石除去・クリーニング・健診の類や智歯関連の治療などが多かった。

図１は、これらの割合の性差を年齢階級別に示したものである。性差が比較的顕著だったのは、「むし歯の治療」、「抜けた歯の治療」、「歯ならびやかみ合わせの治療」、「その他の治療」で、「むし歯の治療」（若い年齢層のみ）と「抜けた歯の治療」では男性の割合が高かったが、歯ならびやかみ合わせ

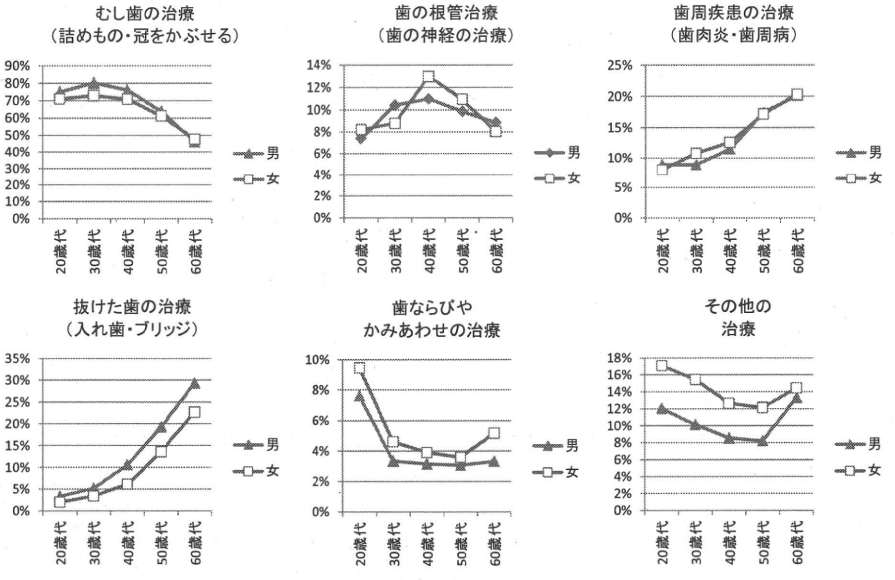

図1. 最後に受けた歯科治療の割合と性差（年齢階級層別）

質問（Q3）＝歯科医院で最後に受けた歯の治療は何ですか（複数回答）

（分母はQ2で歯科受診経験がある人＝「歯科医院で歯の治療は受けたことがない」と回答した以外の人）

の治療」、「その他の治療」では女性の割合が高かった。

2.「定期受診者」に関するクロス集計およびロジスティック回帰分析結果

図2に職病別にみた「定期受診者」の割合を性・年齢階級別に示す。職業による割合の違いは、男女ともに比較的若い年齢層において顕著であり、公務員、経営者・役員、会社員（事務系）、会社員（技術系）が比較的高い割合を示していた。

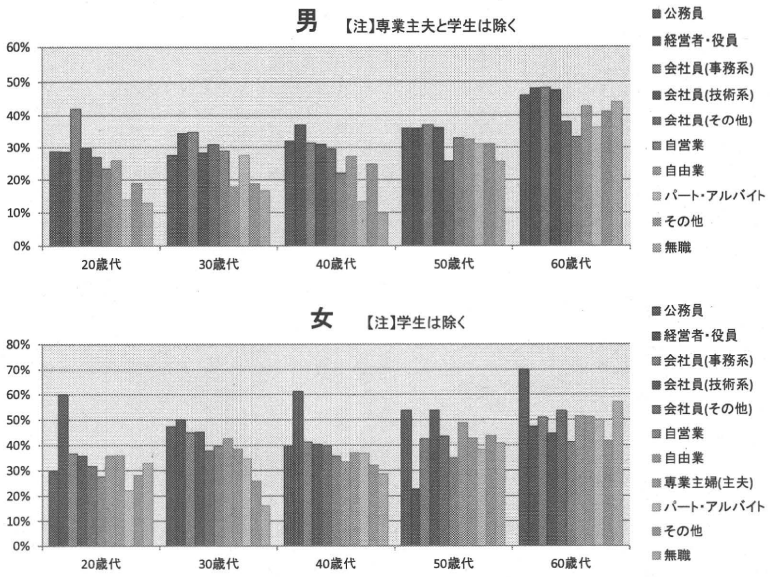

図2. 職業別にみた「定期受診者」の割合

図3に都道府県別にみた「定期受診者」の割合を高い順にソートして示したものである。最大値（佐賀県、44%）と最小値（富山県、25%）では19%ポイントの差が認められた。

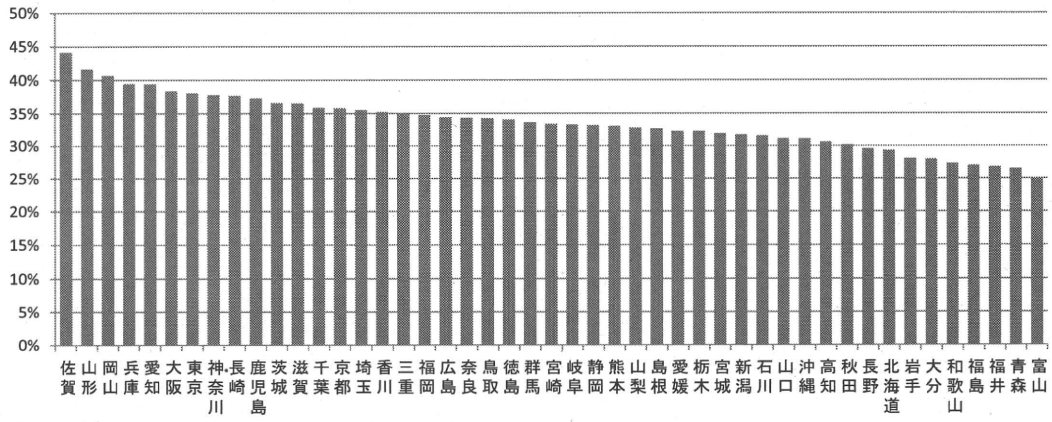

図3. 都道府県別にみた「定期受診者」の割合

表4に定期受診の有無を目的変数としたロジスティック回帰分析結果を示す。男女を合わせた分析では、年齢、性、職業、治療内容との関連が大きく、年齢と性では、高齢層、女性で「定期受診者」が多いことが示された。職業では、公務員に比べて、自営業、パート・アルバイト・学生などの「定期受診者」が少ないことが示された。治療内容では、最後に受けた治療が「むし歯の治療」、「抜けた歯の治療」である場合は「定期受診者」である確率が低く、「歯周疾患の治療」「歯ならびやかみあわせの治療」、「その他の治療」の場合は「定期受診者」である確率が高かった。

男女で層別した分析では、概ね類似した結果が得られ、説明力（Pseudo R^2）も同様であったが、男性では都市部の都道府県で定期受診者が多い傾向が認められたが女性では認められなかった点が異なっていた。

表4. 定期受診の有無を目的変数としたロジスティック回帰分析結果

【注】説明変数は有意性（p<0.05）が認められたもののみ記載

説明変数		男女計		男		女	
		オッズ比	p値	オッズ比	p値	オッズ比	p値
年齢階級（基準：40歳代）	20歳代	0.83	0.000	0.98	0.730	0.75	0.000
	50歳代	1.15	0.001	1.14	0.024	1.14	0.017
	60歳代	1.59	0.000	1.70	0.000	1.52	0.000
性	女性	1.43	0.000				
仕事（基準：公務員）	自営業	0.72	0.000	0.74	0.002	0.65	0.013
	自由業	0.81	0.047	0.76	0.039	0.85	0.427
	専業主婦(主夫)	0.89	0.120	0.85	0.750	0.83	0.217
	パート・アルバイト	0.71	0.000	0.59	0.000	0.69	0.013
	学生	0.76	0.003	0.62	0.000	0.83	0.282
	その他	0.74	0.000	0.76	0.004	0.64	0.006
	無職	0.77	0.012	0.73	0.013	0.76	0.180
都道府県（基準：静岡県）	北海道	0.82	0.052	1.16	0.318	0.59	0.000
	青森	0.73	0.076	1.01	0.971	0.52	0.010
	山形	1.40	0.062	1.90	0.008	1.01	0.971
	福島	0.70	0.035	0.87	0.547	0.56	0.015
	茨城	1.15	0.276	1.57	0.012	0.83	0.300
	埼玉	1.09	0.380	1.46	0.007	0.81	0.114
	千葉	1.08	0.446	1.27	0.083	0.89	0.418
	東京	1.20	0.043	1.51	0.001	0.94	0.614
	神奈川	1.17	0.084	1.44	0.006	0.94	0.660
	新潟	0.87	0.331	1.24	0.293	0.62	0.016
	富山	0.68	0.042	0.89	0.646	0.52	0.019
	愛知	1.30	0.005	1.57	0.001	1.07	0.627
	三重	1.13	0.372	2.02	0.000	0.63	0.018
	大阪	1.21	0.043	1.52	0.002	0.95	0.680
	兵庫	1.25	0.025	1.51	0.004	1.02	0.904
	岡山	1.31	0.046	1.60	0.016	1.07	0.725
	山口	0.86	0.375	1.31	0.248	0.58	0.020
	徳島	1.09	0.669	1.84	0.034	0.64	0.143
	香川	0.99	0.967	1.61	0.050	0.57	0.041
	佐賀	1.62	0.031	1.70	0.121	1.47	0.201
	長崎	1.22	0.250	1.91	0.013	0.82	0.408
	大分	0.73	0.088	0.99	0.970	0.55	0.018
	鹿児島	1.28	0.155	1.72	0.025	0.96	0.862
歯科医院で最後に受けた歯の治療	むし歯の治療	0.74	0.000	0.73	0.000	0.74	0.000
	歯の根管治療	1.07	0.132	1.03	0.639	1.10	0.112
	歯周疾患の治療	2.52	0.000	2.67	0.000	2.39	0.000
	抜けた歯の治療	0.87	0.002	0.93	0.273	0.80	0.001
	歯ならびやかみあわせの治療	1.82	0.000	1.70	0.000	1.90	0.000
	その他の治療	1.80	0.000	1.84	0.000	1.77	0.000
N		29,500		14,682		14,818	
Pseudo R^2		0.0613		0.0595		0.0558	

D．考察

今回の分析では(株)マクロミル社のモニタを対象としたWebによるアンケート調査で得られたデータを用いている。このモニタの属性は同社のウェブサイトに詳細が掲載されている[4]。一般的にWeb調査会社のモニタは、インターネットとの親和性の低い高齢者層を除けば、代表性が他の調査手段に比べてとくに劣るものではないとされており[5]、近年は医学領域でも利用が進みつつある[6,7]。

これを踏まえて、今回用いたサンプルの特性を考察すると、基礎統計量として得られた数値を国の代表値と見なすことはできないが、要因分析結果は比較的普遍性があるとみなして差し支えないと思われる。またサンプルサイズ（N=30,000）が大きいので、偶然変動による誤差が生じる確率は低いと考えられる。

今回の分析では、過去1年間における歯科受診があると回答した人の割合は50.3%であった。過去1年間の歯科受診の有無について調査された直近の全国統計は平成11年保健福祉動向調査（歯科保健）[8]であり、20～60歳代全体で42.8%と報告され、本調査のほうが高い値を示している。患者調査では、最近の歯科診療所の推計患者数がほぼ一定で推移していること[9]を踏まえると、本調査と平成11年保健駆使動向調査の値の差は、この10年強の間に増加したという解釈より、サンプル特性の差に由来するもと考えるのが妥当かもしれない。よって、本調査で得られた20～60歳代全体で定期受診者の割合が35.7%という数値も国を代表する集団に比べると高めの数値と思われる。

診療内容に関する性差については、「むし歯の治療」と「抜けた歯の治療」では男性の割合が高く、「歯並びやかみ合わせの治療」と「その他の治療」では女性の割合が高かった

（図 1）。このうち、「その他の治療」は歯石除去・クリーニング・定期健診などの記載が多かったことから、女性ではこの種の診療内容が多いことに由来する性差と考えられる。平成 11 年保健福祉動向調査では受診した際の主な疾患が調査されているが男女差はそれほど明瞭ではなかったこと[10]を踏まえると、ここ 10 年くらいの間にとくに女性で定期受診すなわち予防管理主体の歯科診療が男性に比べて浸透しつつあることが示唆される。

定期受診に関するロジスティック回帰分析結果（表 4）より、定期受診者の割合に性差（男＜女）および年齢差（若齢＜高齢）が確認された。性差については、もともと女性は健康志向の傾向があること、また歯科を受診する割合が高いことから近年一部の歯科医院において生じつつある予防管理型診療[11,12]へのシフトの影響を受けやすいことなどによるものと考えられる。年齢差については、歯科疾患は年齢とともに不可逆的に進行するケースが多いため、歯科疾患の進行が定期受診の動機づけになっていることが考えられるが、今の若い世代は経済的に苦しい層が多いことも影響している可能性も考えられる。職業に関する分析結果も同様のことを示唆している。職業については、公務員に比べて自営業、パート・アルバイト・学生などで「定期受診者」が少ないことが示されたが、性・年齢階級で層別したクロス集計結果（図 2）をみると男女とも若い年齢層における差が顕著であり、その背景として現代の若い年齢層の経済的な苦しさが影響しているのかもしれない。

都道府県については、全般的に男性において都市化が進んだ都道府県で定期受診者が多いことを示唆する結果が得られたが、女性では定期受診者の増加がある程度進み地域差が見えにくくなっているのに対して男性では都市地域を中心に進みつつある現状であることから、このような結果が得られた可能性も考えられる。これを確認するためには、この種の調査を定期的に実施していくことが必要と考えられる。

なお、結果には示さなかったが、「過去 1 年間の歯科受診」の有無を目的変数として同様のロジスティック回帰分析を行ったところ、定期受診の有無を目的変数とした分析結果（表 4）と類似した結果が得られた。さらに「過去 1 年間の歯科受診」の有無と「定期受診の有無との関連をみたところ、76.7%（＝ 45.3%＋ 31.4%）が一致していた。

表5. 過去1年間における歯科受診の有無と定期受診の有無との関連

		定期受診		
		なし	あり	計
過去1年間における歯科受診	なし	13,593 (45.3%)	1,312 (4.4%)	14,905 (49.7%)
	あり	5,689 (19.0%)	9,406 (31.4%)	15,095 (50.3%)
	計	19,282 (64.3%)	10,718 (35.7%)	30,000 (100.0%)

このことは、歯科受診に関する実態把握を目的とした調査などを行う場合、過去 1 年間における歯科受診の有無を調査することにより、定期受診の実施状況を概ね知ることができることを示唆している。定期受診の有無は質問紙調査などを行う場合、予め定期受診とは何ぞや、という定義を明確にしておかないと混乱を招きやすい面がある[13]が、その点「過去 1 年間における歯科受診の有無」は誤解が生じるリスクは少ないと考えられる。調査に余裕があれば、定期的歯科受診の有無と過去 1 年間における歯科受診の有無は両方調査するのがよいと考えるが、余力がなければ、どちらか一方を選ばざるを得ない状況もあり得るので、そのような際には参考になるかもしれない。

E．結論

(株)マクロミル社のモニタ3万人（20～60歳代の男女）に対して定期歯科受診、最後の歯科受診時期と受けた診療内容についてWeb調査を行った。

定期受診者の割合は対象全体で35.7%、過去1年間における歯科受診ありの割合は対象全体で50.3%であり、ともに女性と高齢層の割合が高かった。

定期受診の有無についてロジスティック回帰分析を行ったところ、性・年齢階級のほか、最後に受けた診療内容、職業、都道府県が有意であり、とくに職業については若い年清掃ほど差が顕著であった。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

G．知的財産権の出願・登録状況

なし

H．引用文献

1) マクロミル社ウェブサイト：http://www.macromill.com/（(株)マクロミル社ウェブサイト、2011年5月9日アクセス）
2) 石田智洋、安藤雄一、深井穫博、大山篤．インターネットリサーチによる歯科定期受診行動に関わる要因についての調査．厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発推進研究事業「歯科疾患等の需要予測および患者等の需要に基づく適正な歯科医師数に関する研究」（研究代表者：安藤雄一）平成22年度研究報告書；2011．195-213.
3) 安藤雄一、深井穫博、石田智洋、大山篤．成人を対象とした歯科健診に対する住民のニーズと選好に関するWeb調査．厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発推進研究事業「歯科疾患等の需要予測および患者等の需要に基づく適正な歯科医師数に関する研究」（研究代表者：安藤雄一）平成22年度研究報告書；2011．215-232.
4) マクロミルネットリサーチモニタ総数：http://www.macromill.com/monitor_info/pdf/20110301web.pdf（(株)マクロミル社ウェブサイト、2011年5月9日アクセス）
5) 本多則惠．インターネット調査・モニター調査の特質 モニター型インターネット調査を活用するための課題．日本労働研究雑誌 2006；551：32-41.
6) 康永秀生, 井出博生, 今村知明、大江和彦．インターネット・アンケートを利用した医学研究．公衆衛生会誌 2006；53(1)：40-50.
7) 筒井昭仁、安藤雄一：ウェブ調査（Web-based survey）によるフッ化物応用に関す

るリスク認知．口腔衛生会誌 2010；60(2)：119-126.
8) 平成 11 年 保健福祉動向調査の概況 歯科保健：
http://www1.mhlw.go.jp/toukei/h11hftyosa_8/index.html（厚生労働省ウェブサイト、2011 年 5 月 6 日検索）
9) 安藤雄一、深井穫博．わが国における歯科患者の現状と推移 ～患者調査の公表値を用いた検討 ～．厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発推進研究事業「歯科疾患等の需要予測および患者等の需要に基づく適正な歯科医師数に関する研究」(研究代表者：安藤雄一）平成 21 年度研究報告書；2010．49-58.
10) 安藤雄一、深井穫博、相田潤、大山篤、恒石美登里．歯科受診および治療中止・転医の要因 ～平成 11 年保健福祉動向調査と国民生活基礎調査のリンケージデータによる分析～．厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発推進研究事業「歯科疾患等の需要予測および患者等の需要に基づく適正な歯科医師数に関する研究」(研究代表者：安藤雄一）平成 22 年度研究報告書；2011．55-69.
11) NPO 法人ウェルビーイング編．明日からできる診療室での予防歯科．医歯薬出版、東京、1998.
12) 康本征史編集．康本征史、武智宗則、築山雄次、清水裕之、渡辺勝、竹歳さおり、阪口歩里、白石一則、濱田智恵子、小窪秀義著．未来型歯科医院をつくろう コンセプト・デザイン・プロセス・人財．医学情報社．東京．2010.
13) 石田智洋．定期健診．歯界展望 2011；117(6)：1112-1113.

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業研究事業）
分担研究報告書

インターネットリサーチによる歯科定期受診行動に関わる要因についての調査

研究協力者　石田 智洋　（東京医科歯科大学歯学 教育ｼｽﾃﾑ評価学分野）
研究代表者　安藤 雄一　（国立保健医療科学院 生涯健康研究部）
研究分担者　深井 穫博　（深井保健科学研究所）
研究協力者　大山　篤　（東京医科歯科大学 歯科総合診療部）

研究要旨

歯科へ定期受診する必要性を感じていても、実際に定期受診する患者もいればしない患者もいる。また、定期受診する必要性自体を感じていない患者もいる。定期受診する／しないを分ける要因は、従来の統計調査からわかっているもの以外にも存在する可能性があり、統計調査の調査内容をより掘り下げて検討していく必要がある。

本調査では、「定期受診している患者が通院している歯科医院」と、「定期受診していない患者が治療時に通院している歯科医院」の特徴を、個々の患者情報を踏まえて比較し、患者が歯科への定期受診行動を起こすとき、あるいはこれが妨げられているときにどのような要因が関連しているのかを分析するため、定期受診に関する歯科医院からの働きかけ、定期受診に対する患者の意識、定期受診している理由・していない理由、患者が定期受診している歯科医院としていない歯科医院それぞれの特徴等に関してインターネットリサーチを用い、性・年齢階層別に調査を行った。

調査の結果、患者も歯科医院も定期受診行動を促す、または妨げる要因を多く持っていることが明らかとなった。定期受診をする／しないに関わる患者側の要因としては、性別や年齢だけでなく、時間的・経済的な余裕、健康に対する意識、身近に定期受診している人間がいるかどうか、などが大きな影響を与えていることが明らかとなった。対して、歯科医院側の要因としては、歯科医師や歯科衛生士が患者へ定期受診を促すような働きかけをしているかどうか、定期受診する歯科医院の環境として患者が求めるような要件を満たしているか、などが大きな影響を与えていることが明らかとなった。特に求められている要件としては、設備の面では「リラックスできること」「スタッフが名札をつけていること」「患者のプライバシーに配慮されていること」、スタッフの人柄の面では「相談しやすいこと」「信頼できること」、診療内容の面では「指導が適切であること」「口腔内の状態を記録すること」「治療回数や金額、現状や見通しを説明すること」が重視されていることが明らかとなった。また、患者の性・年齢は、歯科医院側から定期受診に関するアプローチを受ける患者自身に影響があるだけでなく、与える側である歯科医院側にもアプローチ内容に差を生じさせていることがあることが示唆された。

A．研究目的

本研究班にて以前行われた歯科受診行動に関する仮想需要調査において、この１年間に歯科治療を行った患者の多くが受診した歯科診療施設の選択理由に「かかりつけ歯科であること」と「通院の利便性」を挙げていることが分かった。だが、従来行われてきた歯科医療の需給分析では、痛みや機能障害などの症状がなくとも定期的に歯科を受診する行動、いわゆる歯科定期受診に関する調査および分析はいまだ不十分である。定期受診について考えたとき、例えば必要性を感じていても、実際に定期受診する患者もいればしない患者もいる。また、定期受診について必要性自体を感じていない患者もいると考えられる。定期受診する／しないを分ける要因は、従来の統計調査などの分析からわかっているもの以外にも存在する可能性があり、統計調査の分析内容をより掘り下げて検討していく必要がある。

本調査では、定期受診に対する患者の行動変容ステージ[1,2]の変化に着目し、定期受診している患者が通院している歯科医院と、定期受診していない患者が治療時に通院している歯科医院の特徴を、患者自身の情報を踏まえて比較し、患者が定期受診行動を起こすとき、あるいはこれが妨げられているときにどのような要因が関連しているのかをインターネットリサーチの記述統計により調査し、また、クロス集計により対象者の性・年齢階級別に分析することを目的とした。

B．研究方法

従来の統計調査の分析からは十分に分かっていない、歯科への定期受診に関する歯科医院側、患者側の様々な要因を抽出するため、歯科定期受診行動に関するインターネットリサーチを事前調査と本調査に分け行った。調査期間は平成 23 年 2 月 24～25 日であった。

１）調査における歯科定期受診の定義

モニタに対し、「一定期間ごとに歯や口の状態を診てもらい、必要に応じて歯みがきの指導や歯石除去（歯のクリーニング）をしてもらいに歯科医院を受診することを定期受診しているという。ただし痛みなど、口の中の症状が出て受診したような場合は定期受診としない。」と定義付けした。

２）調査対象

調査対象はインターネットリサーチを専門に行っている、（株）マクロミル社に登録されているモニタであった。

事前調査ではモニタ 30,000 人に対しスクリーニングを行い、「定期受診している」と回答した者のうち、頻度として１年に１回以上の選択肢を選んだ者と、「定期受診していない」と回答した者を抽出し、それぞれを「定期受診している者（以下、定期受診者と略す）」のグループ、「定期受診していない者（以下、非定期受診者と略す）」のグループとした。

本研究では、上記で抽出された２グループそれぞれ対し、男女別に「20 代」、「30 代」、「40 代」、「50 代」および「60 代」、計 10 カテゴリを作成し、各カテゴリ 103 名ずつ、計 2060 名を調査対象とした。調査対象者の属性を資料１に示す。なお、本調査への協力依頼メールの配信数は 2825 通であり、回収率は 72.9%であった。年代別には、定期受診しているグループでは、男性の回収率は 20 代 68.7%、30 代 73.6%、40 代 73.6%、50 代 73.6%、60 代 79.2%であり、女性の回答率は 20 代 68.7%、30 代 68.7%、40 代 68.7%、50 代 73.6%、60 代 79.2%であった。定期受診していないグループでは、男性の回収率は 20 代 68.7%、30 代 73.6%、40 代 73.6%、50 代 73.6%、60 代 79.2%であり、女性の回答率は 20 代 66.5%、30 代 73.6%、40 代 73.6%、50 代 73.6%、60 代 79.2%であった。

2）質問項目

本調査の質問内容は大きく分けて、① 定期受診者に対する質問、② 非定期受診者に対する質問、③ 定期受診者・非定期受診者に対する共通の質問、の３つに分けられた。それぞれの質問項目は以下の通りである。

① 定期受診者に対する質問（質問 1～質問 7）

質問 1. いつから定期受診しているか、質問 2. 期受診するようになる際の歯科医院からの働きかけはあったか、質問 3. 定期受診を促す知らせはあるか、質問 4. 定期受診している理由、質問 5. 定期受診することで実感していること、質問 6. 定期受診を負担に思ったことがあるか、質問 7. 定期受診を中断したことがあるか

② 非定期受診者に対する質問（質問 8～質問 12）

質問 8. 歯科医院から定期受診を勧められたことがあるか、質問 9. 定期受診していない理由、質問 10. 定期受診の必要性を感じているか、質問 11.（質問 10 にて必要性を感じていると回答した者に対し、）定期受診をするようになるきっかけとして考えられること、質問 12.（質問 10 にて必要性を感じていると回答した者に対し、）定期受診に期待すること

③ 定期受診者・非定期受診者に対する共通の質問（質問 13～質問 20）

質問 13. 通院している歯科医院の郵便番号、質問 14. 通院する歯科医院の特徴、質問 15. 歯科以外で通院している診療科、質問 16. 過去 1 年に受けた健診（検診）、質問 17. 喫煙の有無、質問 18. 身長と体重、質問 19. 世帯員数、質問 20. 身近にいる歯科定期受診者

これらの質問項目から得られたデータを集計し、記述統計により分析した。使用した質問票を資料 2 に示す。自由回答の質問 12 に関しては、回答者が意識して用いていたと思われるキーワードを抽出した。同様な意味で用いられているキーワードが複数存在した場合には、キーワードを 1 グループに集約し、５０回以上の頻度で使用されていたキーワード群の度数をグラフにまとめた。

C. 研究結果

本調査の結果を、質問項目ごとに示す。

① 定期受診者に対する質問の結果

質問 1 は、いつから定期受診しているかについての質問である。「2009 年から」が最も多く、15.9%であり、次いで「2008 年から」11.0%、「2010 年前半から」10.5%、「1990 年から」10.5%であった（図 1）。質問 2 は、定期受診するようになる際の歯科医院からの働きかけに関しての質問である。「歯科医師からのはたらきかけ」が 46.7%で最も多く、次いで「歯科医院からのはたらきかけはなかった」36.0%、「歯科衛生士からのはたらきかけ」19.5%、「受付からのはたらきかけ」9.1%であった（図 2）。質問 3 は、歯科医院から定期受診を促す知らせがあるかについての質問である。「特に知らせはない」が最も多く、47.8%で、次いで「DM（ダ

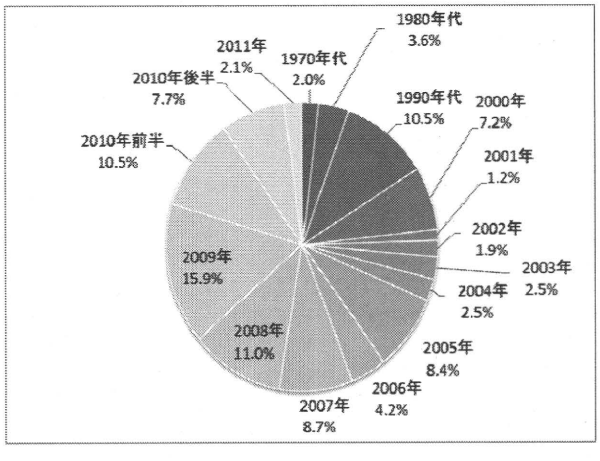

図 1 ［質問 1］いつから現在の歯科医院へ定期受診していますか。

イレクトメール）による知らせ」35.5%、「その他」11.2%、「電話による知らせ」7.9%であった（図 3）。

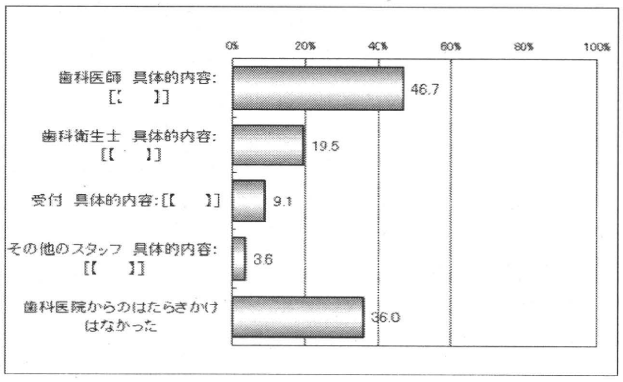

図 2 ［質問 2］あなたが歯科医院へ定期受診するようになる際に、歯科医院の誰からはたらきかけがありましたか。

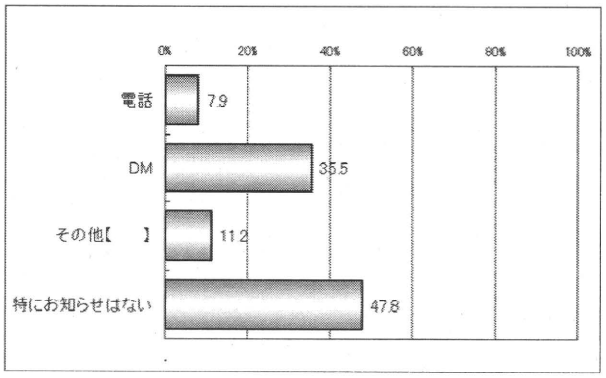

図 3 ［質問 3］あなたが定期受診をされている歯科医院から定期受診を促すお知らせはありますか。

質問 4 は、定期受診している理由についての質問である。「安心感があるから」が 54.4%で最も多く、次いで「歯科医師や歯科衛生士にすすめられているから」52.6%、「効果を実感しているから」33.2%であった（図 4）。質問 5 は、定期受診することで実感していることについての質問である。「口の中の状態についてよく分かるようになった」が 65.2%で最も多く、次いで「気になる症状がなくなった」が 61.1%、「セルフケアの技術が向上した」が 43.3%、「歯科についての知識が向上した」が 25.7%であった（図 5）。

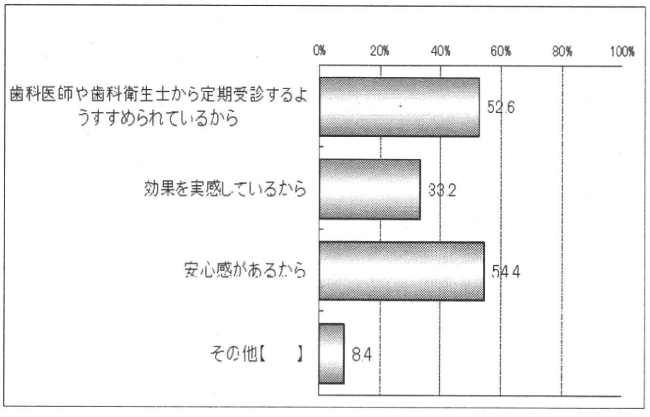

図 4 ［質問 4］あなたが歯科医院へ定期受診に行っている理由はなんですか。

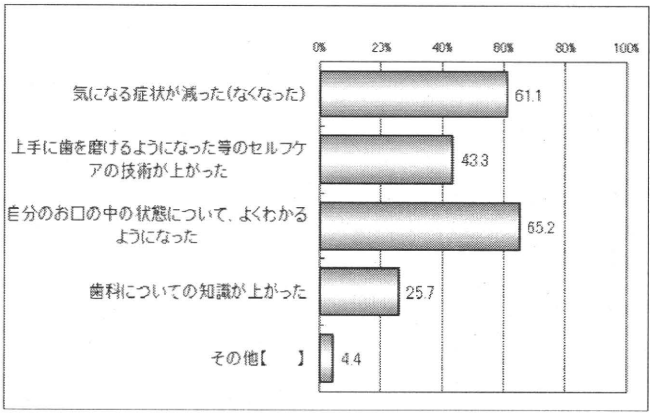

図 5 ［質問 5］歯科医院へ定期受診するようになって、どのような効果を実感していますか。

質問 6 は、定期受診を負担に思ったことがあるかどうかについての質問である。結果は、「ある」19.1%、「ときどきある」27.0%で、合わせて 46.1%が負担に思ったことがあると回答した（図 6）。質問 7 は、定期受診を中断したことがあるかについての質問である。「ある」と回答した者は 42.3%であった（図 7）。

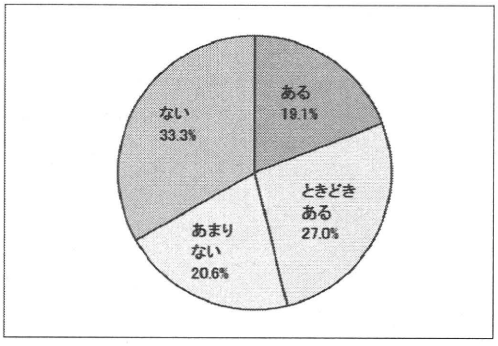

図 6 ［質問 6］歯科医院への定期受診を負担に思ったことはありますか。

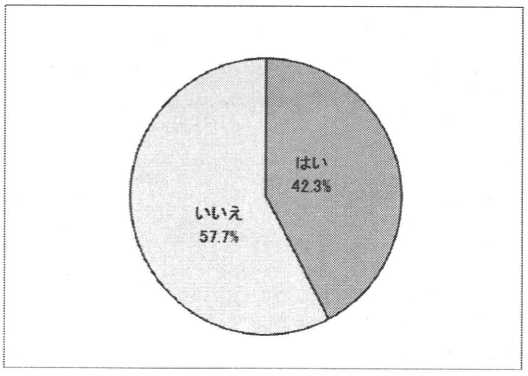

図 7 ［質問 7］あなたは、歯科医院への定期受診を中断したことがありますか。

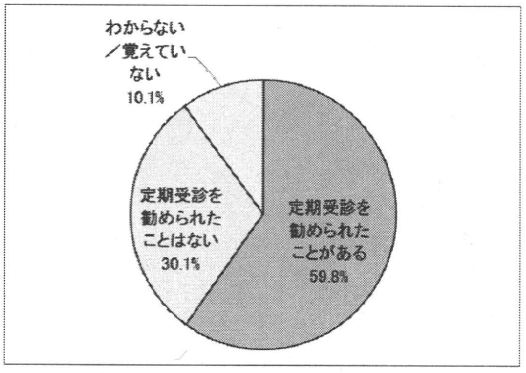

図 8 ［質問 8］あなたは、定期受診を歯科医院から勧められた事はありますか。

② 非定期受診者に対する質問の結果

質問 8 は、歯科医院から定期受診を勧められたことがあるかについての質問である。「定期受診を勧められたことがある」と回答した者は 59.9%であった（図 8）。質問 9 は、現在歯科医院へ定期受診していない理由についての質問である。「時間がないから」が 50.4%で最も多く、次いで「金銭的な余裕がないから」37.1%、「通院が 1 回で終わらず、長引くのが嫌だから」35.0%、「そもそも歯医者が好きでないから」26.6%、が多かった（図 9）。

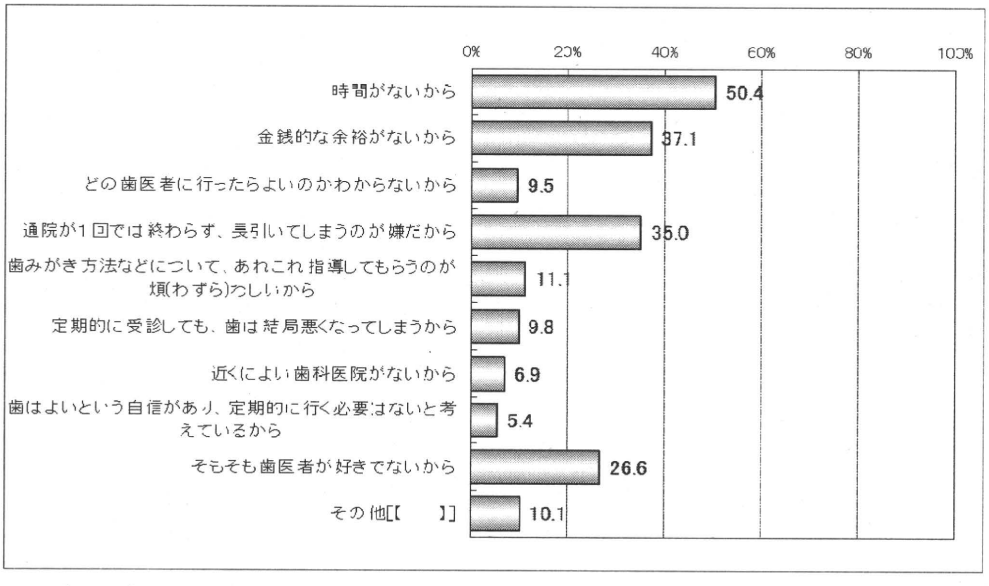

図 9 ［質問 9］あなたが現在、歯科医院へ定期受診していない詳しい理由として、あてはまるものをすべて選んでください。

質問 10 は、定期受診の必要性を感じているかについての質問である。「必要に感じている」18.6%、「やや必要に感じている」56.4%で、あわせて 75.0%が必要性を感じていると回答した（図 10）。質問 11 は、定期受診の必要性を感じている者に対しての、定期受診をするようになるきっかけとして考えられることについての質問である。「時間的な余裕ができる」が 55.6%と最も多く、次いで、「時間的な余裕ができる」45.7%、「定期受診の通院が 1 回で終わるくらい口の状態がよくなる」37.0%であった（図 11）。

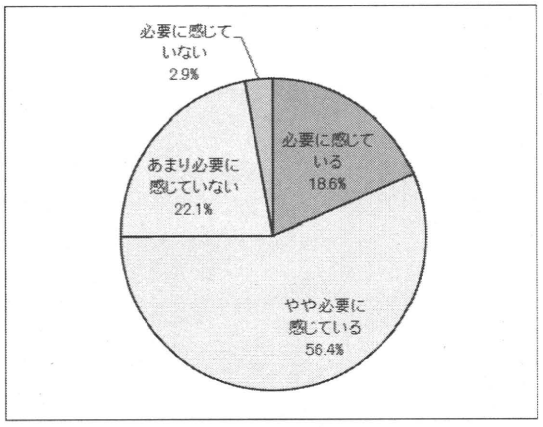

図 10 ［質問 10］歯科医院へ定期受診する必要性は感じていますか。

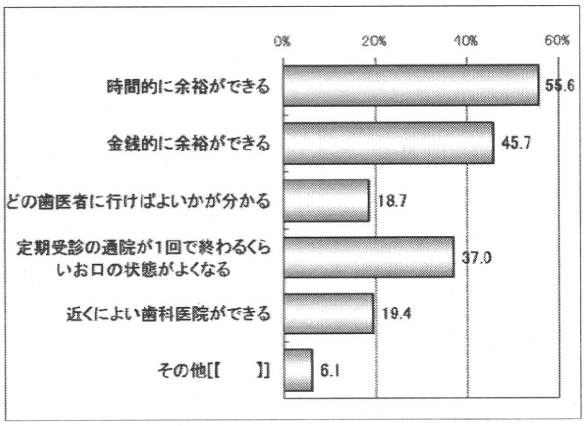

図 11 ［質問 11］あなたが定期受診を始めるきっかけとして、どのような事が考えられますか。

質問 12 は、定期受診の必要性を感じている者に対しての、定期受診に期待することについての質問である。自由回答を集計し、頻出するキーワードを類似するものごとにグループ分けしたところ、最も多かったのは「虫歯」に関するコメントであった。次いで「時間・回数」、「治療」、「指導・アドバイス」、「歯石除去・クリーニング」、「予防」、「料金」、「早期発見」、「歯周病」などに関するコメントが多く見られた（図 12）。

③ 定期受診者・非定期受診者への共通の質問の結果

質問 13 は、通院する歯科医院の郵便番号についての質問である。定期受診者のうち、自宅と受診した歯科診療施設の郵便番号が 7 ケタとも完全に一致するものは 50.1%、自宅と受診した歯科診療施設の市区町村の一致するものは 77.1%であり、非定期受診者のうち、自宅と受診した歯科診療施設の郵便番号が 7 ケタとも完全に一致するものは 57.2%、自宅と受診した歯科診療施設の市区町村の一致するものは 86.8%であった（図 13）。

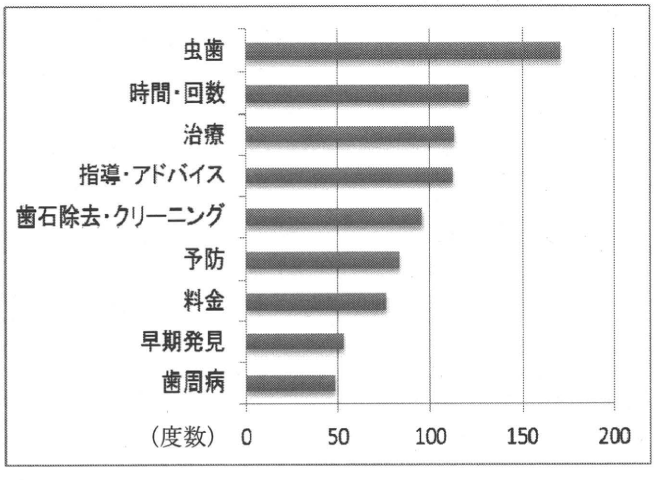

図 12 ［質問 12］歯科医院への定期受診にどんなことを期待しますか。（定期受診に期待することに関係する言葉の頻度）

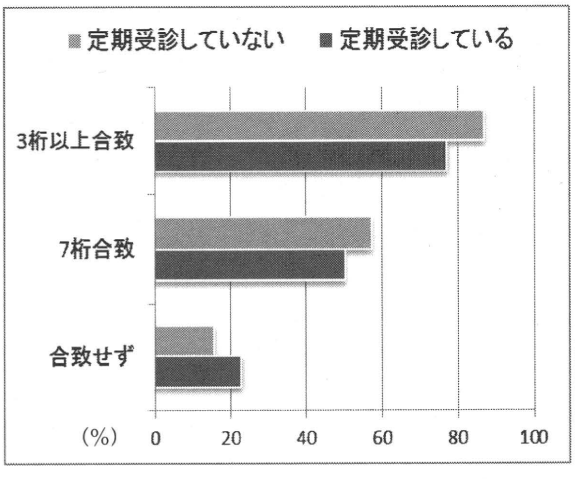

図 13 ［質問 13］あなたの通院する歯科医院の郵便番号を教えてください。（自宅の郵便番号との一致度）

質問 14 は、通院する歯科医院の特徴についての質問である。特徴の項目のうち、定期受診者が通う歯科医院で「あてはまる」、「ややあてはまる」を選択した回答者の合計が、非定期受診者が通う歯科医院よ

り 10%以上多い項目は、差が多いものから順に「歯ブラシなどの具体的な指導が適切である」、「歯科医師や歯科衛生士に褒められたことがある」、「口の中の状態を診査して記録してくれる」、「治療回数と金額の説明を十分してもらえる」、「歯科医師や歯科衛生士と良く話や相談できる雰囲気である」、「勤務している歯科医師・歯科衛生士が信頼できる」、「リラックスできる環境である」、「スタッフが名札をつけている」、「隣の治療台と、壁やパーテーションで仕切られている等プライバシーには配慮されている」、「今後の見通しを分かりやすく説明してくれる」の 10 項目であった（図 14）。

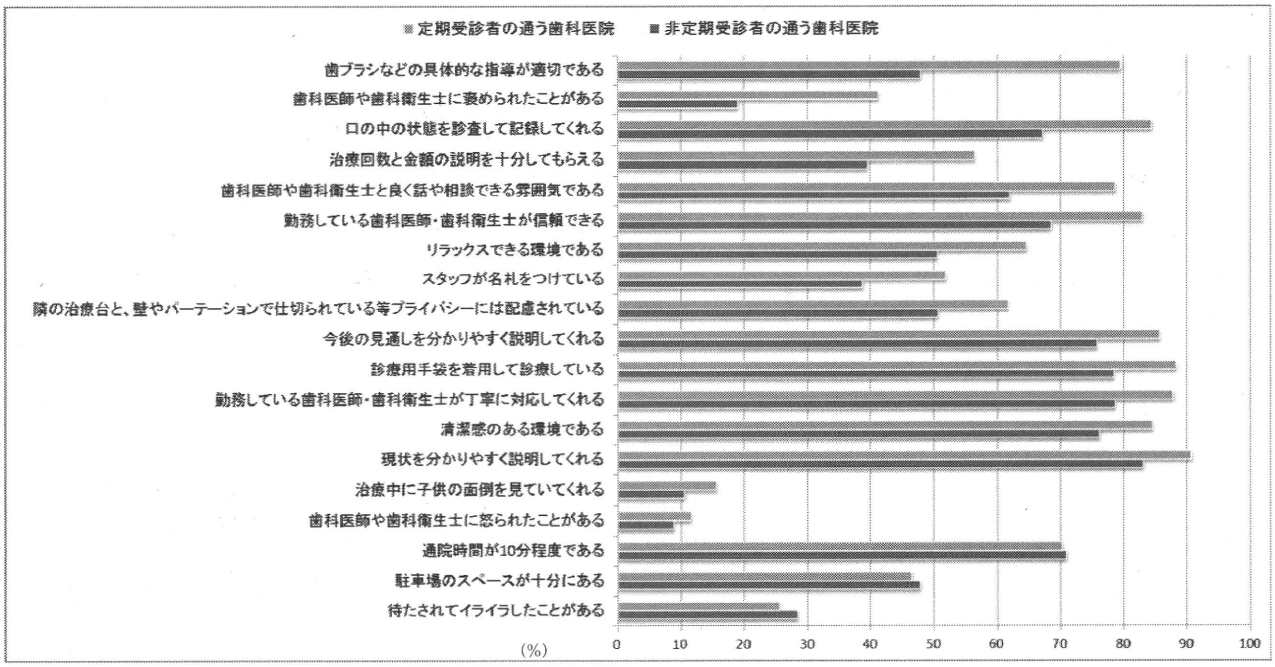

図 14 ［質問 14］あなたがいつも行く歯科医院について、「あてはまる」「ややあてはまる」「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」のうち、あてはまるものをお選びください。（「あてはまる」と「ややあてはまる」の割合の合計）

質問 15 は、歯科以外で通院している診療科についての質問である。定期受診者、非定期受診者ともに、「継続的に通院している」、「一時的に通院している」を選択した割合が最も大きかったのは「内科」であった（図 15, 16）。

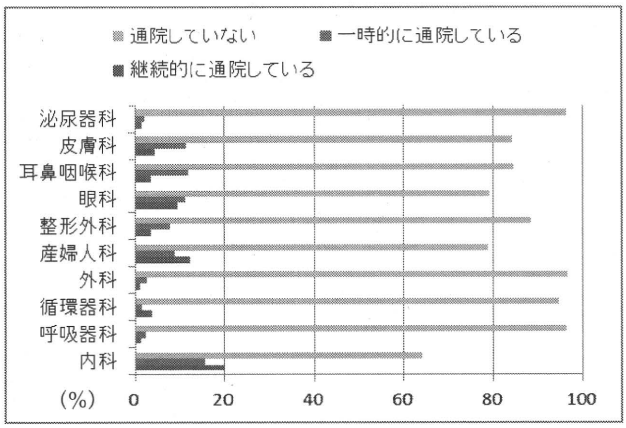

図 15 ［質問 15］あなたは以下の診療科への通院をしていますか。（定期受診者）

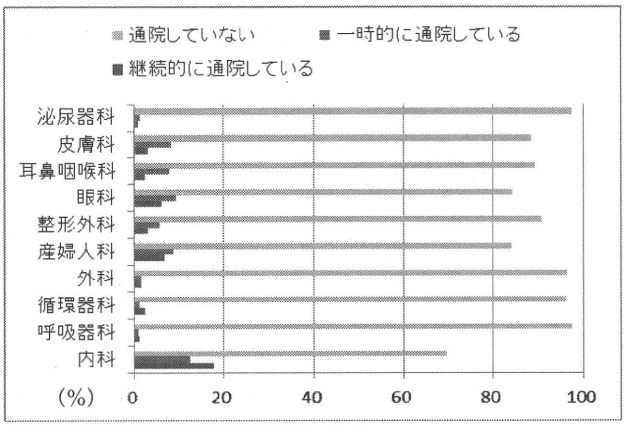

図 16 ［質問 15］あなたは以下の診療科への通院をしていますか。（非定期受診者）

質問 16 は、過去 1 年に受けた健診（検診）についての質問である。定期受診者の場合、「特定健診」を受けたのは 25.1%で、「その他の健診」を受けたのは 39.8%であったのに対し、非定期受診者の場合、「特定健診」を受けたのは 19.9%で、「その他の健診」を受けたのは 30.9%であった（図 17）。質問 17 は、喫煙の有無についての質問である。定期受診者の喫煙者率は 19.3%であったのに対し、非定期受診者の喫煙者率は 21.6%であった（図 18）。

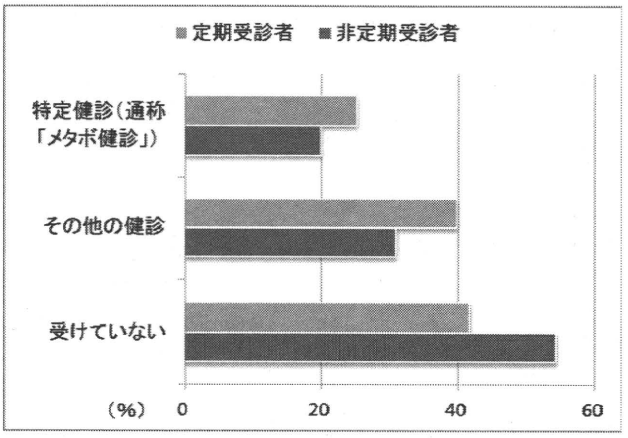

図 17 ［質問 16］歯科以外の健診（検診）について、過去 1 年間に受けたものすべてをお選びください。

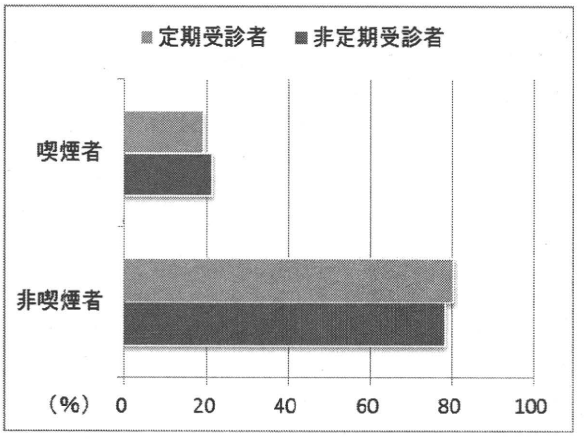

図 18 ［質問 17］現在、たばこを吸っていますか。

質問 18 は、回答者の身長と体重についての質問である。身長・体重より BMI 指数を算出したところ、定期受診者の場合、男性の平均値は 23.2、女性の平均値は 20.8 だったのに対し、非定期受診者の場合、男性の平均値は 23.7、女性の平均値は 21.6 だった（図 19）。質問 19 は、回答者の世帯員数についての質問である。定期受診者では、「2 人」が 28.8%で最も多く、次いで「3 人」が 25.3%、「4 人」が 21.8%であったのに対し、非定期受診者では、「3 人」が 27.9%で最も多く、次いで「2 人」が 25.8%、「4 人」が 19.1%であった（図 20）。

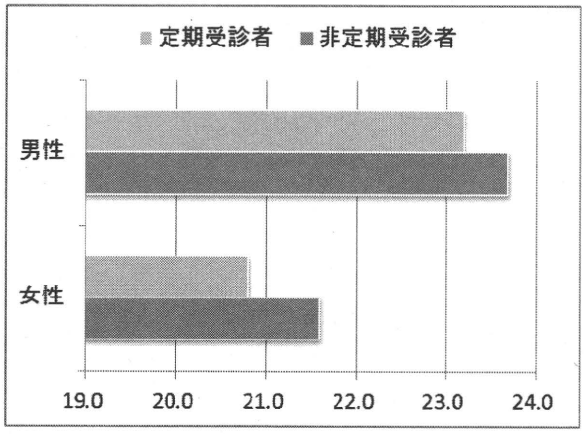

図 19 ［質問 18］身長と体重をお答えください。（身長と体重から算出された BMI 指数）

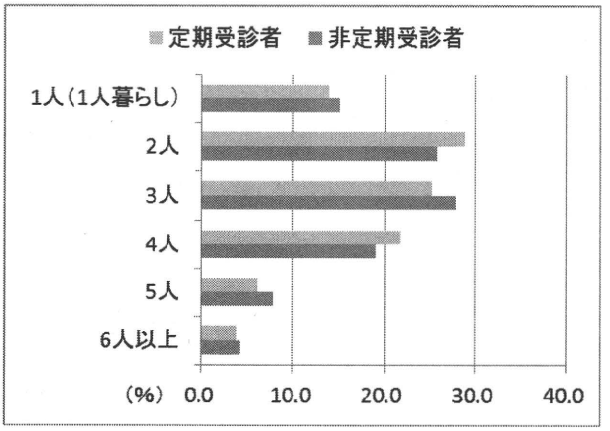

図 20 ［質問 19］ご自身も含め、ご家庭の世帯員数は何人ですか。

質問 20 は、回答者の身近の歯科定期受診者についての質問である。定期受診者では、身近に定期受診している人がいると答えた割合が 70.2%であったのに対し、非定期受診者では、身近に定期受診していると答えた割合は 41.9%であった。また、定期受診者の身近で定期受診している関係者で最も多かったの

が「配偶者」40.9%で、次いで「子供」25.7%、「親」20.9%であった。これに対し、非定期受診者の身近で定期受診している関係者で最も多かったのが「配偶者」22.0%で、次いで「子供」14.3%、「親」12.7%であった（図 21）。

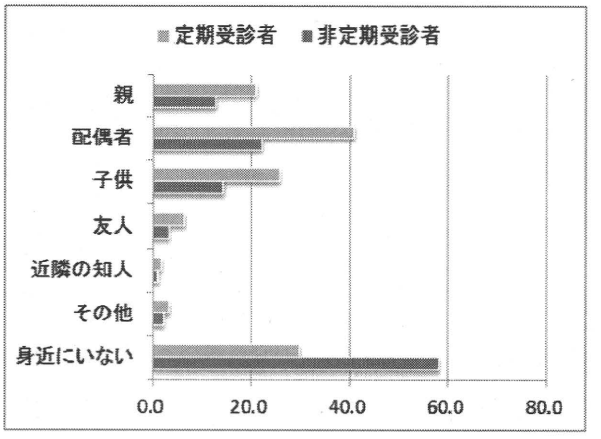

図 21 ［質問 20］あなたの身近に歯科医院へ定期受診している人はいますか。

D. 考察

本研究はインターネットリサーチと呼ばれる手法を用いて行われた。これはインターネットを介して行われるアンケート調査法であり、様々な年齢・性別・職種・居住地域の、多数のモニタに対し比較的短期間に調査を行うことができるとして、近年一般的に利用されている手法である[3)]。

本調査の質問 1～7 は、定期受診者に対する質問であった。そのうち質問 1 では、定期受診の継続年数としては過去 4 年以内に半数以上の定期受診者が集中しているという結果になったが、20 年前から継続的に定期受診し続けている者も 10.5%おり、長期的に定期受診に関するモチベーションを高く保つことも可能であることが示唆された。質問 2 からは、定期受診するようになったきっかけとして、歯科医院からの働きかけとしては歯科医師から患者に対する働きかけが最も多いことが分かった。対して、歯科医院からの働きかけがなかったとする定期受診者も 36.0%存在し、質問 3 の、定期受診を促す定期的な知らせが「ない」とする定期受診者が半数近く存在することと併せ、歯科医院からの働きかけなしに自主的に定期受診するようになった者も多数存在することが考えられた。また、質問 2 において、得られたデータを性別・年齢階層別にクロス集計したところ、50 代の女性 76%に定期受診を促す働きかけがあったのに対し、20 代、30 代の男性には 57%しか働きかけがなかった等、歯科医院側から定期受診を促す行動に、患者側の性別や年齢によって差が生じている可能性が示唆された（表 1）。質問 4 からは、定期受診をしている理由として、安心感があるからと回答した者と、歯科医師・歯科衛生士からのすすめがあるからと回答した者がそれぞれ半数以上いた。また、定期受診の効果を実感しているからとした回答者も約 3 分の 1 おり、実感している内容としては、質問 5 から、自身の口腔内の状態把握と、気になる症状が出なくなったことをそれぞれ 6 割以上の回答者が選択していた。また、セルフケア技術の向上を実感している回答者も 4 割以上おり、自己管理がひとつのキーワードになっていると考えられた。質問 6 からは、現在定期受診している者のなかで、定期受診を負担に思っている者と思っていない者が、おおよそ半々であることが明らかになった。実際、過去に定期受診を中断した者も質問 7 から、4 割以上いることが分かり、患者各々の状況によって定期受診による負担の度合いが様々であることが窺われた。

本調査の質問 8～12 は、非定期受診者への質問であった。そのうち質問 8 からは、歯科医院から定期受診を勧められたことがあるにも関わらず定期受診していない者が 6 割いることが明らかになった。定期受診していない理由としては、質問 9 から、時間がないことや金銭面の負担、毎回の定期受診が 1 度